

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
健康管理センター長	南谷 かおり
非常勤医員	馬場谷 美知子
副医長	葛城 有希子
応援医師	南 千勢
保健師	張 鈺豊

—概要—

健康管理センターは、人間ドック、脳ドック、その他各種健診業務、女性外来、保健指導等を行っている。

常勤医員1名(南谷医師)、非常勤医員1名(馬場谷医師)に加え、9月末までは総合内科の医員1名(葛城医師)、10月以降は応援医師1名(南医師)にて業務を行っている。

人間ドックは完全予約制で月・水・金曜日、脳ドックはそれに加えて土曜日に頭部MRI・MRA検査を行っている。特定健診、後期高齢者医療健診は火、木曜日の午前中、企業検診は平日の午前中、泉佐野市民検診である骨密度測定検査は平日の午後、乳がん検診は日曜日に年8回(1回あたり28名)行っており、それぞれ予約制となっている。一般検診は平日の午前中に行っており、予約は不要である。特定健診受診後、保健指導対象者となった受診者さんには、当日中に人間ドックアドバイザーの資格をもつ保健師が保健指導を行い、生活習慣の改善によるメタボリックシンドローム発症予防をめざしている。

その他、被爆者2世健診、海上保安庁、消防署、関空の検疫所等の公務員の健診、就学時・就職時健診、企業の職員およびそのご家族の健診等を行っている。

また最近の訪日外国人旅行者の増加に伴い、中国からの人間ドック受診希望の問い合わせが増加したため、本年度より外国人専用健診を開始した。通常の日本人向けのドックとは実施日、内容、価格を変更し、診察・検査には通訳が同行する。当センターの保健師が中国出身であり、現在のところ、対応可能言語は中国語のみとなっているが、検査結果も日本語・中国語の両方で作成している。

—実績—

2015年度の健康管理センター利用件数は、延べ1,763件であった。

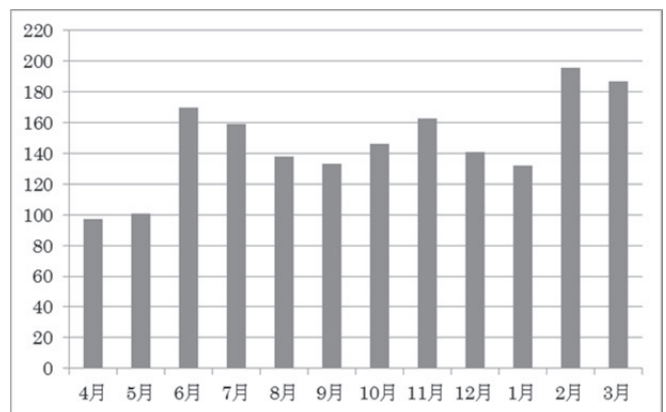
内訳として、人間ドックコース及び脳ドックコースの受診件数は合わせて778件で、さらに人間ドックコース受診者でオプション検査として脳ドックを追加した件数は206件あった。

また、企業健診は210件、一般健診は139件、特定健診・後期高齢者医療健診は66件、特定健診保健指導は12件、乳がん検診は203件、骨密度測定は86件、外国人専用健診は6件であった。

2015年度 健康管理センター利用件数

	件数
人間ドック・脳ドック	778
オプション脳ドック	206
企業健診	210
一般健診	139
特定健診・後期高齢者健診	66
特定健診保健指導	12
乳がん検診	203
骨密度測定	86
抗体検査	16
予防接種	10
女性外来	3
アミノインデックス	28
外国人専用健診	6
合 計	1,763

2015年度 月別健康管理センター利用件数



—今年度の成果と反省点—

4月より眼科常勤医の退職に伴い、これまで眼科医に依頼していた無散瞳カメラによる眼底写真の読影を遠隔読影による外部委託へ変更したが、支障なくスムーズに実施できている。

これまで人間ドック受診者は入院患者さんと同じ病衣着用であったが、今年度よりドック専用の健診着へ変更した。着用したままで診察や検査を受けることができ、着心地も良くなったと好評である。また、ドック受診者とわかるので、迅速に検査へ案内ができるという利点もある。

昨年より開始した特定健診・後期高齢者医療健診は、昨年度の41件から66件へと利用件数が増加した。

今年度より開始した外国人専用健診は6件とまだ実施件数は少ないが、問い合わせは増加傾向にある。

昨年度は脳神経外科専門医の減少のため、脳ドックの実施件数を制限することとなり、申し込みから受診まで数か月の待ち時間が生じていたが、今年度は、結果報告書作成を脳神経外科専門医が行い、受診者への結果説明は健康管理センター担当医が行うことで脳神経外科の負担を減らし、また、放射線科の協力にてMRI検査枠を増やすことで、年度後半からは脳ドック実施件数を増加させることが可能となり、待ち時間を短縮させることができた。

—来年度への抱負—

人間ドックは各科の検査枠に制限があるため、大幅な予約枠増加は難しいが、少しでも効率化を図り、受診人数を増やせるようにしたいと考えている。

また、人間ドックの内容のさらなる充実を目指し、オプション検査の追加についても検討中である。

外国人専用健診については、現在は中国語のみの対応であるが、今後は英語による対応も考えており、ホームページなどでの広報活動も行っていく予定である。